

令和3年度第2回松本「シンカ」推進会議 会議録

日時：令和3年11月29日（月）

午後3時30分～5時00分

場所：第一応接室＋オンライン

欠席委員 益山委員、林委員、赤沼委員、伊藤委員

1 開会

2 局長あいさつ

3 座長あいさつ

4 議事等

(1) 人口の定常化に向けた取組みについて

ア 「松本市人口ビジョン」について

【総合計画策定に向けたこれまでの議論について】

▽総合計画の議論は、「量が減ったなかでも、いかに質を保ち、むしろより高い質で、暮らし続けるか」という問いであった。

「人は減る」という現実を受け入れた上で、その少なくなった「人たち」と共に、このひとつの「地域社会」で、いかに「豊かで幸せな暮らし」を実現するか、そのことに世界に先駆け「挑む」ことこそが、松本のミッションなのではないか。（追加意見）

イ 人口の定常化に向けた取組みについて

【人口の定常化のターゲットについて】

▽若い世代の移住をターゲットにしているようだが、本日の議論もその内容か。

⇒(事務局)その年代に限らないが、メインターゲットになるのではないか。

▽取組対象が、いわゆる18歳以上のみの視点で考えられているが、地域での暮らしと人格形成は、十分に相関があると思うので、幼小中高の時期をどうとらえるか、何を取り組むべきかの議論も必要。

例えば、上伊那地域は、かなり以前から産学官民が連携した、郷土愛育成、キャリア教育に取り組んで来ている。その効果検証が必要あるが、そうした活動も検討対象となるのではないか。

▽18歳以下も取組みの検討対象になり得る。

【取組みの独自性について】

▽資料1-1にある策定済みの施策13項目と検討中の施策4項目について、他自治体も取り組んでいるものが多い。松本市独自の施策が策定されているかどうか。
(追加質問)

⇒(事務局)例えば、結婚や若年層の経済的な負担軽減については、周辺市町村での実施事例ありませんが、県内では複数の市町村で実施中
若者世代向け市営住宅改修は、県営住宅で取り組んでいる。

ウ 意見交換

【若い世代への住宅施策について】

▽住宅政策について、市営住宅は家族向けに作られた物件もあり、建物面積の広い住宅に、高齢者が一人で暮らしている例もある。若年層の経済的な負担軽減や地域の維持・活性化のためにも、世帯向けの住宅に、若い家族が住めるようにしてはどうか。

▽昔は市が住宅団地を建設すれば、若い人たちが多く住んだ。40年以上経過して、高齢化が進んでいる。古くなった市営住宅は空室もあり、若い世代に積極的に住んで欲しい。高齢化が進めば、町会の維持も難しくなる。

▽人口動態を見ると、過去には住宅が足りない時代があり、住宅を整備した。高齢者が増え、子どもが減る中で、住宅の更新は難しい実情もあるのではないか。

▽なぜ市営住宅の入居条件を65歳以上としているのか。

⇒(事務局)65歳以上に限っているとは承知していない。

今後、若い世代も入居しやすいように、市営住宅のリフォームなどを検討している。

▽過去に、住宅供給に関して何らかの理由があって建てられているが、時代が変わる中で、当初の建設目的から変えていく必要がある。

【山間部での取組みについて】

▽医療体制へアクセスは、山間部になればなるほど遠くなる。場所によっては、救急車呼ぶのも40分かかるので、自分で移動した方が早いといわれている。例えば、開業医のサポートをすることで、訪問医療の起業をサポートするなどがあれば、山間部の医療も充実し、子育て世代、働き盛り世代なども安心して定住できるのではないか。

【調査・研究について】

▽全国的に人口の取り合いをしている。徹底的な調査・研究が必要。

例えば、首都圏からの移住は、収入は減るが土地代が安いことなどに生活が維持されるということをシミュレーションする必要がある。

▽三ガク都と言われる、文化・芸術を大切にす都市文化なども、松本市のポテンシャルになる。

【お試し移住について】

▽1週間のお試し移住などを実践しても良いかもしれない。不安解消することで、移住を決めるきっかけになると思う。

【若い人の就農について】

▽若い人ややる気のある人が農業をやりたいくても、参入障壁が高く、簡単にはやることできないという課題がある。

▽コロナ禍で農業をやりたいという人たちも増えているように感じている。何かをやりたいという人たちに政策的に支援していると良い。

【結婚前の支援について】

▽結婚を増やすこともあるが、結婚の手前の若いカップルの同棲を促す住宅政策があっても良いのではないか。

▽若い人たちが多く働く、例えば、工業団地などで出会いの場を設けてはどうか。

【山岳を活かした教育機関の立地について】

▽個性を重視した多様な学びについて、山岳エリアのプロを育てる高校、学びと山岳が両立できるような高校というように、松本の特色を生かした高校があると、とても面白い。若い人が増えると、公共交通も充実するのではないか。

▽松本市に若い人が集まるのは、大学などの立地が大きい。

【子どもたちの滞在について】

▽ふるさと納税の返礼品として、山村留学を加えてはどうか。

▽親が松本市に長期滞在中に、保育園に短期的に入れるというようなものがあるても良い。1週間ぐらい滞在して、子どもの交流も促してほしい。

▽お試し移住の際に、1週間、1か月の滞在中に、保育園に入園できるなども考えられる。

【移住者のターゲットについて】

▽東京では、本社オフィスを手放す企業が増えている。経済支援で移住するタイプとは別に、年収レベルは高く、リモートで仕事ができるような人たちもいる

のではないか。

- ▽ターゲットを絞り込んだ方が良くのではないか。対象地域は、首都圏・名古屋圏・大阪圏で、松本市だけへの移住ではなく、地域経済圏である松本地域への移住で考えた方が良く。(追加意見)
- ▽松本市の最大のポテンシャルは「自然」、「里山」、「田畑」。これらのポテンシャルを引き出すことができるのは、「余所者」、「若者」「歌舞伎者」と言われる人たち。その人たちの新しい風を常に引き込むこと、その新しい風が吹くことに、地域が常に寛容であることが必要。(追加意見)

【プロモーションについて】

- ▽テレワークや移住などのケースがあり、今はチャンス。松本の良さなどを知ってもらうためのプロモーションが必要。
- ▽結婚して、これから子どもを育みたいけれど、その環境は大都市ではない、と直感している夫婦たちは、特に、このコロナ禍以降、大都市圏には多数いるのではないか。その夫婦の「選択肢」として、松本という地域をいかに「認識」してもらうのが重要。(追加意見)
- ▽各施策は相互に関連しているため、個別に制度を案内するのではなく、統合した形で web 上に特設ページを設けるなど、移住希望者に対する情報発信が極めて重要と思われる。(追加意見)

【子どもたちの学び・教育について】

- ▽子どもたちの性教育や死に対する学びも必要
- ▽世界のデジタル関連企業の経営者も、子どもたちにはデジタル機器を与えておらず、自然の中で遊ばせているという。そういった取組みも必要
- ▽自然環境に恵まれているからこそできることがある。学び、山岳、ヘルスケアを充実させたい。
- ▽地域の中で子どもの行事を大切にしたい。小さなことから、松本の良さを知ってもらいたいと思う。そういう仕掛けづくりをしていきたいと思っている。
- ▽小さい頃の思い出を、大人になったときに思い、松本に戻ってもらえる仕掛けづくりが必要。松本の魅力を小さい時から、知ってもらいたい。
- ▽コロナ禍で子どもの修学旅行の行き先が変更され、松本城などの近郊になった。複数の子どもが松本城をじっくり見られたことが楽しいと答えていた。
- ▽インターネットにより、すべての情報が完結しがち。現場での実体験を教育として与えていくことが必要なる。
- ▽「既存の公立学校の授業内容や指導方法を工夫する」という枠を越え、どの地域で子育てをするか検討している都市圏の夫婦が地方に求めている 「個性あ

る教育現場の選択肢の多様さ」に対応できる、地域性を活かしながら特色ある教育が実践できる初等中等教育（小中高）が必要。

【若い世代の就労について】

▽企業も転入者の採用意向は強い。インターンシップや就職相談会などを、企業がまとまってやっていくことが必要。採用には経費がかかるので、企業側にも、転職組の採用に対するインセンティブがあっても良いのではないか。

▽首都圏の学生の地方に対する目が変わってきている。就職などの良い考えができるのであれば、マッチングできるのではないか。ただ、物理的に遠いので、宿泊費等がかかるので、そういう支援があっても良いのではないか。

▽銀座 NAGANO で、福祉職場での相談会をした際に、とても熱心に聞いてくれる人がいた。介護・福祉分野の人材が不足しており、定員の削減など、今後深刻化してくる可能性がある。

【学生の市内定着について】

▽周囲の大学生で、松本市内に就職したいという人はいない。その理由は、職がないこと。就職情報は、ほとんどネットで調べているが、情報が出てこない、何をやっている企業なのかわからないことが大きな理由。

▽松本市内のインターンシップ説明会には前向きな反応があった。学生が求める、大学生のニーズに合った情報発信が必要になる。

【外国人の定住について】

▽日本には外国人が 200 万人滞在しており、国内の人口争奪戦となっている。松本市では、20 代、30 代の年代が多く、若い外国人の働き手を定着させるような施策も必要。外国人が住みやすいということは、住民も住みやすいことになる。

(2) その他

5 閉会

以上